

令和3年度 連携・協力事業の実施状況について

教員研修専門部会

【プロジェクト名】 中堅教諭等資質向上研修等研修機会の多様化

1. プロジェクトの目的・概要

本事業は、平成17年1月に締結された佐賀県教育委員会との「連携・協力協定書」に基づく事業である。中堅教諭等資質向上研修は、教育公務員特例法改正（平成14年6月）により制度化された教職歴10年の教諭等を対象に行われる研修である（平成29年4月の法改正により名称変更）。この研修は、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる学習指導や生徒指導等に対する指導力の向上、加えて教育公務員としての資質向上等を目的として実施するものである。

佐賀大学教育学部は、喫緊の教育課題への対応、最新の専門的知識や指導方法の獲得などの教育における多様なニーズに応えるため、又、中堅教諭等に向けた「より高度で多様な現職研修」の実現を図ることを目的として、大学及び附属学校を活用した様々な講座を開設している。

2. 令和3年度の実施状況

令和3年度開講講座は表1の通り、全9講座（U1～U9）を実施。

表1 令和3年度「中堅教員等資質向上研修」の講座一覧

講座番号	教科等	対象校種	講師名	講座名	開催日時／場所
U1	特別支援	幼・小・中・特支・養護教諭等	日高 茂暢	読み書き障害（LD）の通常学級での支援・個別での支援	8/3（火） 13:00～16:30 佐賀大学
U2	保健体育	小・中・特支等	山津 幸司	体育授業や運動部活動指導に活かす体育心理学の視点	8/5（木） 13:00～16:30 佐賀大学
U3	図画工作	小	和田 学	小学校低～高学年の工作教育における知識・技能について	8/20（金） 13:00～16:30 佐賀大学
U4	理科	小・中	中村 聡	理科の電気分野で誰もが抱く誤概念	8/24（火） 10:00～16:00 佐賀大学
U5	理科	幼・小・中・高・特支	岡島 俊哉	学びの環境としての教師	8/27（金） 9:00～12:00 佐賀大学
U6	全教科	全校種	附属小	授業力向上研修会	7/21（水） 附属小学校

U7	全教科	全校種	附属小	公開教育研究発表会	11/4 (木) 附属小学校
U8	理科、美術、保健体育、技術、家庭	全校種	附属中	公開授業研究会	6/18 (金) 附属中学校
U9	国語、社会、数学、英語、総合、	全校種	附属中	公開教育研究発表会	11/5 (金) 附属中学校

講座番号 U1～U6 の参加者は表 2 の通り、延べ人数合計 35 名(昨年度は延べ人数 35 名)。

表 2 講座別参加者数 (アンケート回収数より、以下同様)

講座	U1	U2	U3	U4	U5	U6	計
参加人数	15	2	6	1	4	7	35

講座番号 U1～U6 の校種別参加者は、表 3 の通り。

表 3 校種別参加者数

校種	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	盲学校	ろう学校	特別支援学校
人数	3	18	13				1

講座番号 U6 の附属小学校による「授業力向上研修会」は、「授業力向上フェスタ」と称して、「小中連携による学力向上推進地域指定校」と「中堅教諭等資質向上研修」及び「教職 1 年目から 5 年目」の教員を優先対象として、参観人数を制限しながら授業公開がなされた。対象となる受講者層や公開の視点がはっきりしていたことで、実践研究成果の還元へつながったと考えられる。

講座番号 U8 の附属中学校における「公開授業研究会」はオンライン方式で行われ、理科 19、美術 8、保健体育 17、技術 9、家庭 23 の計 76 名の参加があった。

講座番号 U7、U9 の附属小学校及び中学校による公開教育研究発表会は、両附属学校からの完全オンライン方式で行われた。参加者は、小学校 155 名中学校は 163 名、総数は 318 名。公開授業もオンライン方式で行い、教室を俯瞰する位置からの撮影と児童生徒の取り組みを捉える移動する撮影を組み合わせるなど、工夫に富んだ意欲的な試みとなった。授業研究会もオンライン方式で行われ、活発な意見交換が展開されていた。

3. アンケートから見えること

・講座開設に関連した課題

「講座数(選択の幅)を増やしてほしい」15(アンケート回答数、以下同様)、「シラバスを分かりやすくしてほしい」4、となっており、受講者の求める講座の開設へ向けた協力の呼びかけは引き続き必要と考えられる。これに関わる「今後どのような講座を大学で開講すべきか」との問いに対しては、「特別支援教育」18(アンケート複数回答、以下同様、選択項目は 19)、「子ども理解に関すること」16、「教材開発」15、「学級・学年経営」14、「保護者や地域とのコミ

コミュニケーションに関すること」11,「学習指導法や授業設計」10,「教育相談」10,「児童・生徒とのコミュニケーションに関すること」10, などとなり, 多様な側面からの講座開設が望まれていることをうかがわせる。

・講座を選択する理由

関連したアンケートの4つの設問の中で「興味のある課題」16,「指導上必要と思ったので」10, が「得意分野を伸ばすため」4,「不得意な分野を補うため」2, を大きく上回っており(有効回答のみ), 本研修の成果が学校での指導へつながることを期待しながら受講されていたと考えられる。

4. 今後について

令和2年度に続き令和3年度も, コロナ感染症への対応も必要なため講座開講数が減じている。アンケートからも読み取れた多様な要望も踏まえ, 教育学部教員への協力要請が必要である。GIGA スクール構想への対応, 英語教育や特別支援教育への対応等, 教育の現場での取り組むべき課題は多様化するとともに専門性を求めている。本プロジェクトは, 現職中堅教諭の学習指導及び生徒指導の指導力向上のための研修機能としての役割を果たしていくべきである。